

| | | | | | |
|-----|----|----------|-------------------|------|------|
| 教科名 | 平面 | 曜日 時間 | 金曜日 9:10~12:00 | 担当者名 | 西 治子 |
|-----|----|----------|-------------------|------|------|

| | 前期指導案 | | | 後期指導案 | |
|----|----------------|----|----------|-------|-----------|
| | 年間授業日 (26回) | 4月 | 12 | 19 26 | 10月 |
| 5月 | | 10 | 17 24 31 | 11月 | 1 8 15 22 |
| 6月 | | 7 | 14 21 28 | 12月 | 6 13 |
| 7月 | | 5 | 12 | 1月 | 17 24 |
| 9月 | | 13 | | 2月 | |

| | | |
|-----|-------------|-------------|
| 方授業 | (講義 ・ 実技) | (講義 ・ 実技) |
|-----|-------------|-------------|

| | | |
|--------|--|--|
| 業 内 | <p>1. 鉛筆デッサン—隠れた次元 (4/12~5/31 全7回) 【モチーフ】スニーカー1足とガラス製品またはペットボトル1個 ・課題に入る前に、A4コピー用紙を用いた造形エクササイズ ①パッキングで作る「パートナー」 ②今週の出来事 ③触覚で見えるもの</p> <p>2. 色彩の研究—共感覚の試み (6/7~7/12 全6回) ①色の三属性の発見と歴史について学ぶ。 ②講師がテーマごとに作成した用紙に着色する (色鉛筆)。 ③ガラス制作に活用するための独自のカラーチャートを作る クラフト用紙(全紙)を用い、チャートの様式は自由。</p> | <p>3. かたちの研究Ⅰ—抽象へのステップ (9/13~11/15 全8回) 与えられた用紙に提示されたことばやテーマに沿って形を導き出す。 ことばが形に変換される時、意味、発音、音調、ニュアンス、表記の違い(カタカナ、ひらがな、漢字、外国語など)によって表れる形はどれほど違うのか。 描き出した複数のスケッチの中から数点を選び、オブジェを制作する。 素材は各自で選択し準備する。 * 9/13はA4コピー用紙を用いたエクササイズとする。</p> <p>4. かたちの研究Ⅱ—箱の中の記憶 (11/22~1/24 全5回) 課題3から抽出した形を活かし、各自の記憶に残る風景、時間(瞬間)出来事、人、ものを表現する。記憶という、自分には分からないものを他者に伝える仕掛けとして、オブジェは「箱」の中に設置するものとする。材料各自準備。</p> |
|--------|--|--|

| | | |
|------|---|--|
| 到達目標 | <p>1. エクササイズでは、1枚のコピー用紙から印象の異なる形をなかなば無意識に生み出していくことを体験する。互いのオブジェクトを鑑賞しながら視点や手法の多様性について話し合う。 デッサンはデジタルツールを駆使する時代に改めてその意味が問われる。機器にアウトソーシングしない観察力、物の構造、空間の認識を全身でつかむ心意気で取り組む。</p> <p>2. 「色彩感覚が優れている」とはどういう事か。あなたの色のセンスを現在よりも1段階研ぎ澄ますにはどうすればよいか。自分が好む配色をチャートによって「見える化」し、ガラス制作に活かしていく。色彩が音、触覚、形、味覚などに置き換えられることを提唱したカンディンスキーのメソッドを体験する。</p> | <p>3. ことばに触発されて次々と形がひらめき、数多くのスケッチとして視覚化されていく。「自動筆記」にも似た作業に集中しながら感覚を研ぎ澄まし、潜在意識が唯一無二の形を引き出してくることを期待する。ことば、イメージ、形を相互につなぐシナプスの精度を高めていきたい。</p> <p>4. 「箱」について多視点で考える。用途、目的、サイズ、素材、開閉の仕組みなど改めて発見することも多いと思う。既存のボックスアートやアッサンブラージュ(立体物によるコラージュ)の作品(例えばジョセフ・コーネル、C・ポルトンスキー)をリサーチしてみる。</p> |
|------|---|--|

| | | |
|--------|--|--|
| 成績評価基準 | <p>1. エクササイズは造形のための準備運動として自由にのびのびと取り組みたい。ありふれたコピー用紙が感動を呼び起こすオブジェに変身する。「遊び」から造形の本質にせまる「シリアス」が生まれることがある。そうした気付きがあったか。互いの作品に関心を寄せ、積極的に語りあったか。 デッサンではモチーフの構成、正確なプロポーション、質感、量感の描き分け、パスベクティブなど基本的なことができているか、また完成度についても評価する。</p> <p>2. 自身の色彩傾向についてリサーチし、制作に反映させることができたか。配色パターンの数は充分あるか。ブック、カード、マップなど、チャートの様式を生かすことができたか。講評日までに完成させることができたか。</p> | <p>3. スケッチをたくさん行っているか。練り上げられた形に到達したか。素材と調和しているか。選ばれたことばやテーマを伝える形として説得力を持っているか。抽象形体への洞察を深め、課題に確かな手ごたえを感じたか。期限までに完成させることができたか。</p> <p>4. 箱に対する考察が充分できたか。作業をスムーズに進んでいったか。既存の箱のイメージを超えるかまたは活用することに成功したか。オブジェとの調和や記憶につながる表現ができているか。効果的な展示ができているか。</p> |
|--------|--|--|

| | | |
|------|--|--|
| 留意事項 | <p>1. 【研究所準備】デッサン用木製パネル、イーゼル(希望者のみ) 鉛筆デッサン用画用紙 人数分 A4コピー用紙 適宜 【学生準備】デッサンのモチーフ、クロッキー帳、鉛筆デッサンのための用具一式、マスキングテープ、セロテープ、カッターナイフ、のり、ハサミ、色鉛筆(以上、年間を通じて使用のため、常時手元に置いて下さい)</p> <p>2. 【研究所準備】クラフト全紙(4枚入りパック)人数分 課題2のほか、課題3、4でも補助的に用いる。</p> | <p>3、4ともに素材は自由。各自準備する。デジタルツールによる制作も可とする。</p> |
|------|--|--|